霞とうろうまつり

「花能舞台」に地元小学生も出演

霞三丁目商店街主催で毎年開催が恒例となった「霞とうろうまつり」。今年は第六回目となり八月十三日（金）に開催される。このお祭りでは、毎年様々なイベントが企画されているが、今年は特設ステージにて喜多流大島能楽堂「花能舞台」の上演を企画。出演は大島衣恵さん、大島文恵さん、大島紀恵さん、八木原周平さん。この「花能舞台」の第一部　連吟「猩々」（約五分）に地元商店街の小学生が出演することになり、練習が進められている。

今回能舞台に出演するのは、霞小学校に通う一年生から四年生の十人で、霞三丁目商店街の子どもたちが中心。本番までの全五回の練習では、大島衣恵さんに能の基本動作から舞台の出入り、謡の基本などの指導を受けている。

初舞台に向けて練習に取り組む

七月十七日（土）に行なわれた三回目の練習では、謡い方のおさらいから扇の持ち方、舞台の出入りなどを確認。また衣裳合わせも行なわれ、数名の子どもたちは浴衣に袴を付けて練習を行なった。初めて袴をつけたという四年生の中重くんは「体が重たい。いつもより声が小さくなった気がするけど…」と照れながらも、真剣な表情で練習に取り組んでいた。

指導にあたっている大島衣恵さんは「大きな声を出すこと、姿勢を正すことの気持ちよさに、子どもたちも気付いてくれています。挨拶やお稽古の心構え、所作など、日本独自の動きの美しさを伝えたいですね」と話している。

初めての袴に緊張の様子